「かながわ人権政策推進懇話会」

マイクロアグレッションについて考える

中村正
（立命館大学）

2023年8月1日（火）

自己紹介です―研究と実践―
社会実装/トランスレーショナルリサーチ

①少年刑務所での性犯罪処遇
②児童相談所の家族再統合事業（虐待する男親面談）
③DV加害男性・体罰教師へ更生面談
④ハラスメント加害者への対応
⑤高齢者虐待の養護者支援SV
⑥ハーグ条約執行事案研修（大阪地裁）
⑦地域生活定着支援事例検討
⑧弁護士会家事研究会SV（離婚と暴力）
⑨刑事事件での裁判所情状鑑定・私的鑑定
⑩SNSでのヘイト発言者への職場復帰面談・・・・・

暴力の臨床社会学研究
・加害者臨床を実践し、
実装すること

担当科目・研究領域：**臨床社会学/社会病理学**＋ジェンダー研究（男性性研究）

本日の内容

１．マイクロアグレッションとは
２．マイクロアグレッションは暴力の「窓と鏡」
３．マジョリティの日常―無知と無視と排除
４．若者が考えたマイクロアグレッション
５．暴力加害にみるマイクロアグレッション
６．まとめとして―脱マイクロアグレッションへ

１.マイクロアグレッションとは

内容と構成

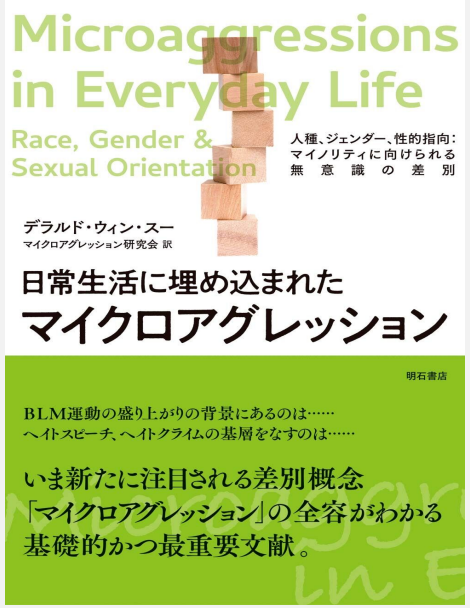
マイクロアグレッションをとおして社会的差別について考えます。本日の対象は「直接的差別」です。日常の相互作用、発話、コミュニケーション、言葉、しぐさ、記号や物、文脈、認識や知識、文化のなかに入り込む差別です。

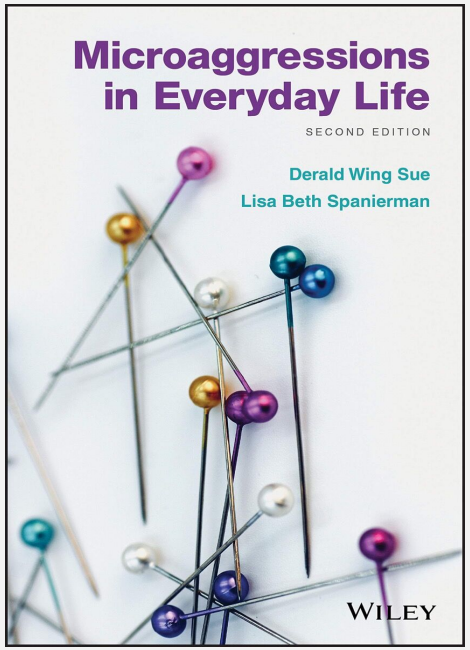
マイクロアグレッションとは

大学院ゼミを拠点に在日コリアンの社会人たちも加わり翻訳（明石書店、2021年）。

マイクロ（微視的な）アグレッション（攻撃・憎悪・非難・差別・いじめ）＝日常生活の相互作用で生起する見えにくい、善意でもあり、無知を含む「直接的行為」や暴力性をはらむ行為。

普段の何気ない会話や行動、学校や職場など日常生活の中に現れる偏見や差別に基づく「見下しや侮辱」のこと。マイクロは「小さい」という意味ではなく、個人間、日常生活の中で起こる差別事象のこと。微視的であるがゆえの破壊力がある。





マイクロアグレッションを書いたスー先生

ティーチャーズカレッジ（教職大学院）で臨床心理学・多文化臨床論を講じる中国系アメリカ人としてのスー教授。その体験が随所に。

著名な大学の学部長らに対する半日のダイバーシティ・トレーニングセッションに招かれた時のこと。会場に居並ぶ学部長や事務長の中に有色人種が一人もいない。しかもほとんどが男性であった。「環境に埋め込まれたマイクロアグレッション」だと指摘する。

「（有色人種の学生である）あなたはもしかしたら卒業できないかもしれないし、（有色人種の教員は）正規の職を得たり昇進したり出来ないかもしれない」「ここではあなたや、あなたのような人は歓迎されていない」「あなたがもしこの大学にいることにしたとしても、あなたの成功はたかがしれている」というメッセージをこの環境から感じたという。

見えにくい差別を把握するために

マイクロアグレッションという用語は、1970年代に アメリカの精神科医であるチェスター・ピアースによって初めて使われた。ピアースは日常的に白人からアメリカの黒人に向けられ、時には無意識的に行われる、**従来の差別とは違う中傷や侮辱**を言語化しようとした。公民権運動などによって「差別はいけない」という気運が高まる中で、**差別が形を変えわかりにくい形**で現れてきたという背景を指摘しつつ体系化。

マイクロアグレッションの例（本書より）

・先生が黒人の生徒に「黒人なのになんて知的で冷静なんだ」と誉める。
・アメリカで生まれ育ったアジア系アメリカ人に「どこから来たの？」「英語が上手ですね」と言う。

相手の社会的に弱い立場としての属性を用いて侮辱するような、「〇〇人は劣っている」という従来型の差別行為のなかには、相手の社会的・文化的アイデンティティを無礼に扱う、社会的に弱い立場の人々の経験や感情などを否認し無価値なものとして扱うという意識、態度、発話など、見下しを含んだ賞賛としてのマイクロアグレッションがある。

さらに、アジア系アメリカ人へのマイクロアグレッションの例

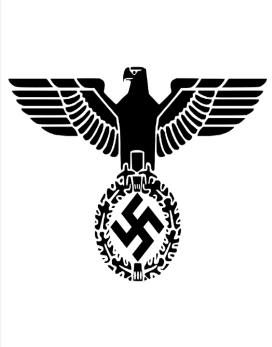
①よそもの扱いされること（「どこから来たの」「英語上手ですね」「なぜ訛ってないの」という善意の評価）、②知的能力の高さを出自に帰されること（アジア系は知的であるというステレオタイプに基づいて一定レベルの知性をもっていると思い込むこと）、③アジア系アメリカ人の女性がエキゾチックさを求められることや男性は性的意欲がない、弱々しいものとして見られること、④異人種間の違いを無意味なものとして扱われること（アジア系はみんなよく似ていると思い込むこと）、⑤文化的な価値観やコミュニケーションスタイルを問題があるものとして扱われること（アジアの文化的規範が沈黙を大事にする面があるのに学校や大学の授業では口頭で発表し、参加することを期待され、学業を成功させるために西洋の文化的規範に従うことを余儀なくされていると感じる）、⑥居ないものとされがちなこと（人種の問題がもっぱら黒人と白人のことだとされること）等である。

マイクロアグレッションの三つの形態

こうした現実がジェンダー、性的指向、人種についてたくさんあり、マイクロアグレッションとして体系的に把握されていく。本書からは、より**曖昧で漠然**としており、特定したり認識したりすることが難しくなってきている差別と偏見が見えてくる。**隠されており、相手を無価値化し、屈辱的で、侮辱的なメッセージを繰り返し伝える、場合によっては善意のかたち**をとって迫る様相も伝わってくる。

①マイクロアサルト MICRO-ASSAULT

かすかなものもあればあからさまなものもある。これは意識的かつ意図的な行為である。環境に埋め込まれたサインや言語、または行為によって、周縁化された人々に伝えられる人種、ジェンダー、性的指向に対する偏った態度や信念、行為がある。KKKのずきん、ナチスのカギ十字、オフィスにあるヌード写真、ニガー、ジャップ、ビッチという蔑称等が典型的である。明示的な軽蔑を含み、特定個人に狙いを定めて暴力的な言動を行い、攻撃的な環境をつくる。価値を貶める、避ける等の差別目的の行為がある。



攻撃的な記号性をもつ

②マイクロインサルトMICRO-INSULT

やりとりや環境に埋め込まれた形をとり、ステレオタイプや無礼さ、無神経さを伝えるコミュニケーションのことを指す。特定の人種、ジェンダー、性的指向、境遇、アイデンティティを侮辱するという特徴をもつ。かすかな無視のようなものとしても表現される。多くは無意識で気遣いのないコミュニケーションをとおして人種的出自や文化の価値を貶めることになる。女性の医師が男性の患者から看護師と間違われる、女性の社長に向かって「社長はどこ？」と聞く等の例が挙げられている。

③マイクロインバリデーション
MICRO-INVALIDATION

有色人種、女性、LGBTQといった特定のグループの人々の**心の動きや感情、経験的なリアリティなどを無視したり、否定したり、無価値なものとして扱ったりすること**。マイノリティの心理状態や考え方、感情、経験を排除、否定、無化、無価値化する行為である。差異を無視して平等な扱いをしていると言うこと等も該当する。

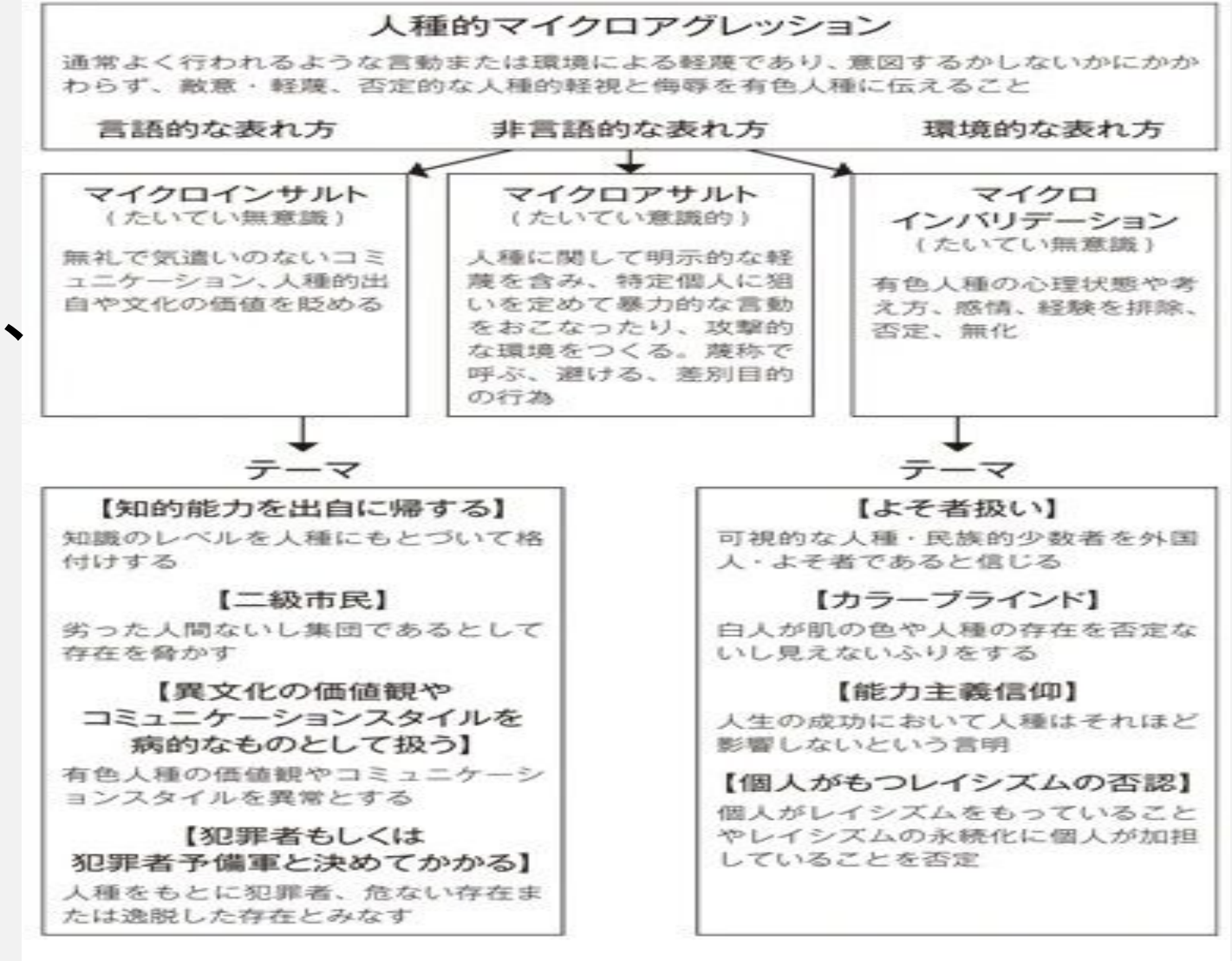
参考：ネット記事　2020.12.30
曖昧で漠然とした、認識しづらい差別と偏見——いま注目される差別概念
マイクロアグレッションとは何か「じんぶん堂」（中村正）

「そんな属性なんか気にしていないよ！私は中立的だよ！」「やればできるよ。能力が問題だよ！」
という無知と善意。

マイクロアグレッションの全体像

無意識の、善意の、
無知の、気づかない、
マジョリティの、
常識となった、

発言、意識と無意識
行動、
コミュニケーション



マイクロアグレッションが関心を持たれる社会状況

- 心理的精神的暴力（DV防止法改正2023年）を追加
  接近禁止命令の 発令要件拡大「更なる身体に対する暴力又は生命・身体・自由等に対する脅迫により**心身に重大な危害**を受けるおそれが大きいとき」
- モラルハラスメントへの関心/さらに強いガスライティング（マニピュレーション）ー関係コントロール
- パワーハラスメント防止法（改正労働施策総合推進法） の定義ー精神的攻撃や個人の侵害を明記
- 刑法改正（2017年・2023年）性犯罪ーグルーミング、地位や関係性の利用
- カルト二世問題ー主にマインドコントロール
- SNSー自己顕示欲的な発言
- ヘイトコミュニケーションにある優越的コミュニケーション・他罰的コミュニケーション
- いじりや嘲笑ー攻撃性の下方転化
- サイレンシングー自己責任化＝セルフサイレンシング、自己非難を強いる ・・・・・・・・・・・・・・・・・・

例：善意と無知とマイクロアグレッション

マイクロアグレッション

立命館大学教授
中村正

有形力の行使としての身体的な暴行ではない差別的言動を「マイクロアグレッション」という。

第一は、攻撃である（micro assault）。言葉による脅しや相手を指弾して威嚇する等の意図的な攻撃行動である。環境に埋め込まれた侮蔑的サインや言語、行為による偏った態度や信念である。明示的な軽蔑を含み、特定個人に狙いを定めて暴力的な言動を行い、攻撃する。価値を貶める、避ける等の差別目的の行為もある。

第二は、相互行為に埋め込まれているもので、ステレオタイプや無礼さ、無神経さ等である（micro insult）。軽微な無視もある。加害者に自覚のないことが多い。人をカテゴリーにあてはめるコミュニケーションを通して出自、文化の価値、個人の尊厳を貶めることになる。「花子さんの絵は女らしいきめ細かなタッチがとてもいいね」という褒め言葉はよくある。個人の表現力を褒めるべきだろう。女らしいは関係ない。

第三は、有色人種、女性、LGBTQといった特定のグループの人々の心の動きや感情、経験を無視したり、否定したり、無価値なものとして扱ったりする（micro invalidation）。マイノリティの心理状態や考え方、感情、経験を排除、否定、無視、侮蔑する行為である。この文献を翻訳・出版する作業をしながら在日コリアンのメンバーが話題にしていた。「留学生ですか」「日本語うまいですね」「日本に何年居るのですか」と聞かれることが多いという。その瞬間、在日コリアンである存在が無視された感覚を持つと語る。

さらに厄介なことがある。こうしたことをしている側から謝意が示される場合である。その謝罪がマイクロアグレッションとなることがある。「あなたを傷つけてしまったならごめんなさい」「気分を害したようなので謝ります」等である。相手を傷つけた自己が立ち現れてこない。加害者が内省され、自らの発言や行為がもつ差別性に向き合おうとする謝罪ではない。脆弱で傷つきやすい被害者が話題になっている。

マイクロアグレッションという言葉で日常の発言と行動を点検してみよう。

〈参考文献〉

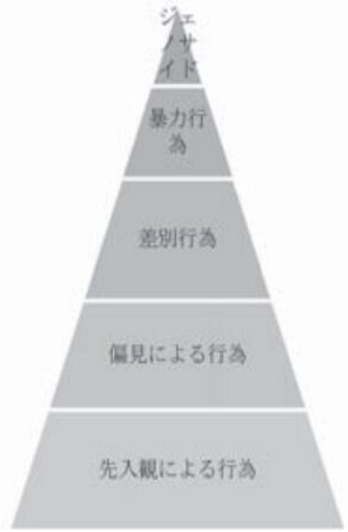
デラルド・ウィン・スー著、マイクロアグレッション研究会訳『日常生活に埋め込まれたマイクロアグレッション――人種、ジェンダー、性的指向：マイノリティに向けられる無意識の差別』明石書店、2020年。

学校の中の「差別」を考える

コラム記事です。

２.マイクロアグレッションは暴力の「窓と鏡」

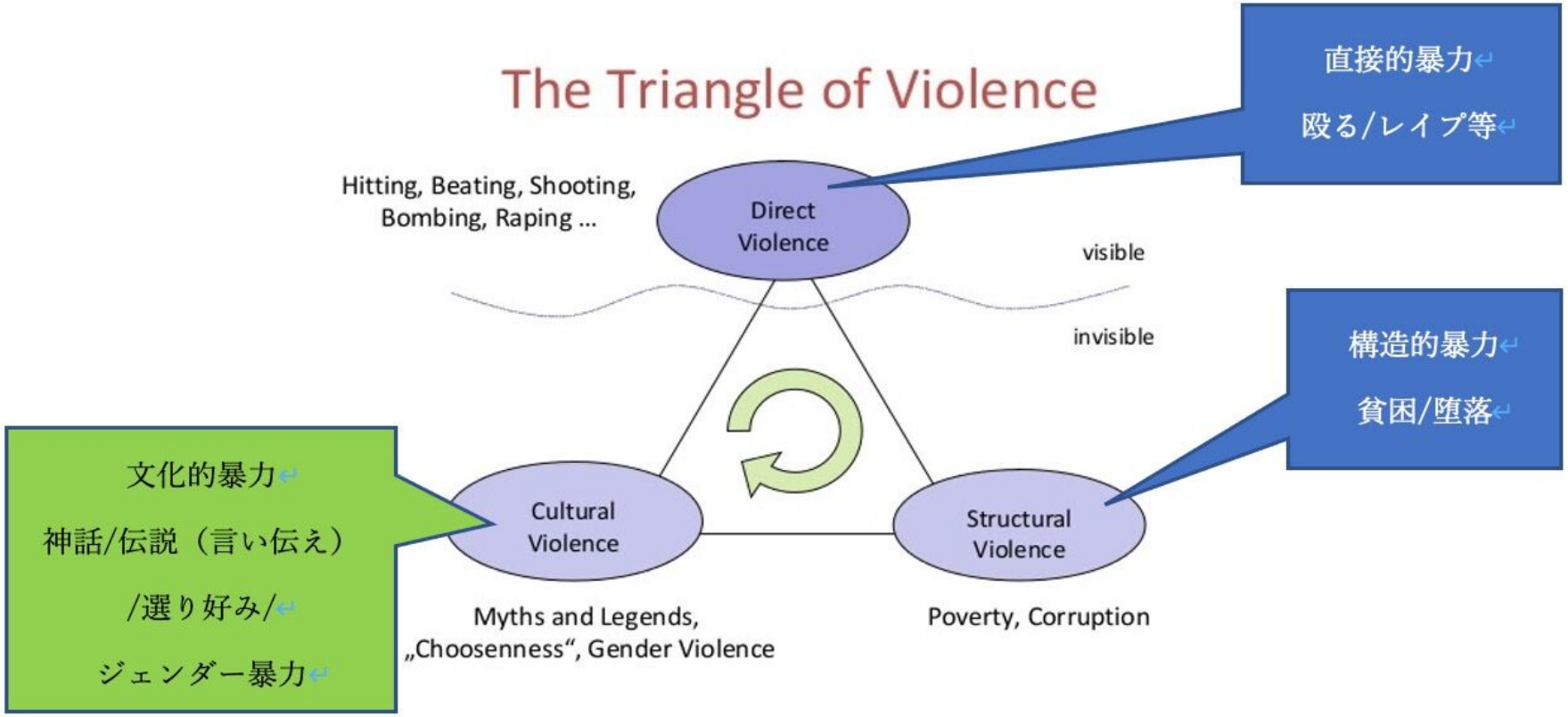
差別構造の理解

憎悪のピラミッド（Pyramid of Hate）	
	Genocide 意図的・制度的な民族の抹殺
	Bias-motivated violence 殺人、強かん、暴行、脅迫、放火、テロ、器物破損、冒とく罪
	Discrimination 住居差別、教育差別、就職差別、いやがらせ、社会的排除
	Individual acts of prejudice スケープゴート、非人間化、嘲笑、社会的回避、意図的な差別表現
	Bias 冗談、嘘、ステレオタイプ化、敵意の表明、配慮を欠いたコメント、排除する言語
（Anti-Defamation League より）	

冨増四季「ヘイト暴力のピラミッドに照らした分析ー
京都事件から見えるものヘイトスピーチ・ヘイトクライム」
HPから引用

構造的暴力－平和研究者ガルトゥング

図２　ガルトゥングの暴力の三角形



https://www.slideshare.net/gracewithfire/love-and-peace-with-the-world（2020 年 2 月 28 日アクセス）

非対称な関係性・権力勾配

図１　ジェンダー非対称な暴力の認識

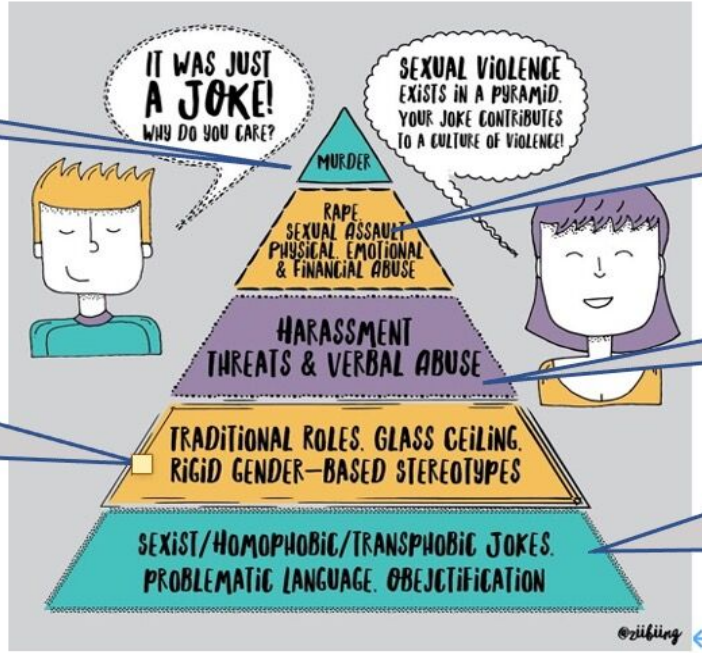
殺人

レイプ、性暴力と感情の暴力、経済的暴力

ハラスメント、脅し、言葉の暴

伝統的役割、ガラスの天井、ジェンダーに基づく厳格な固定観念

性差別的、同性愛嫌悪、トランス嫌悪的なジョーク/問題のある言葉、モノ化



暴力についての男性と女性の異なる意味づけ

中村訳

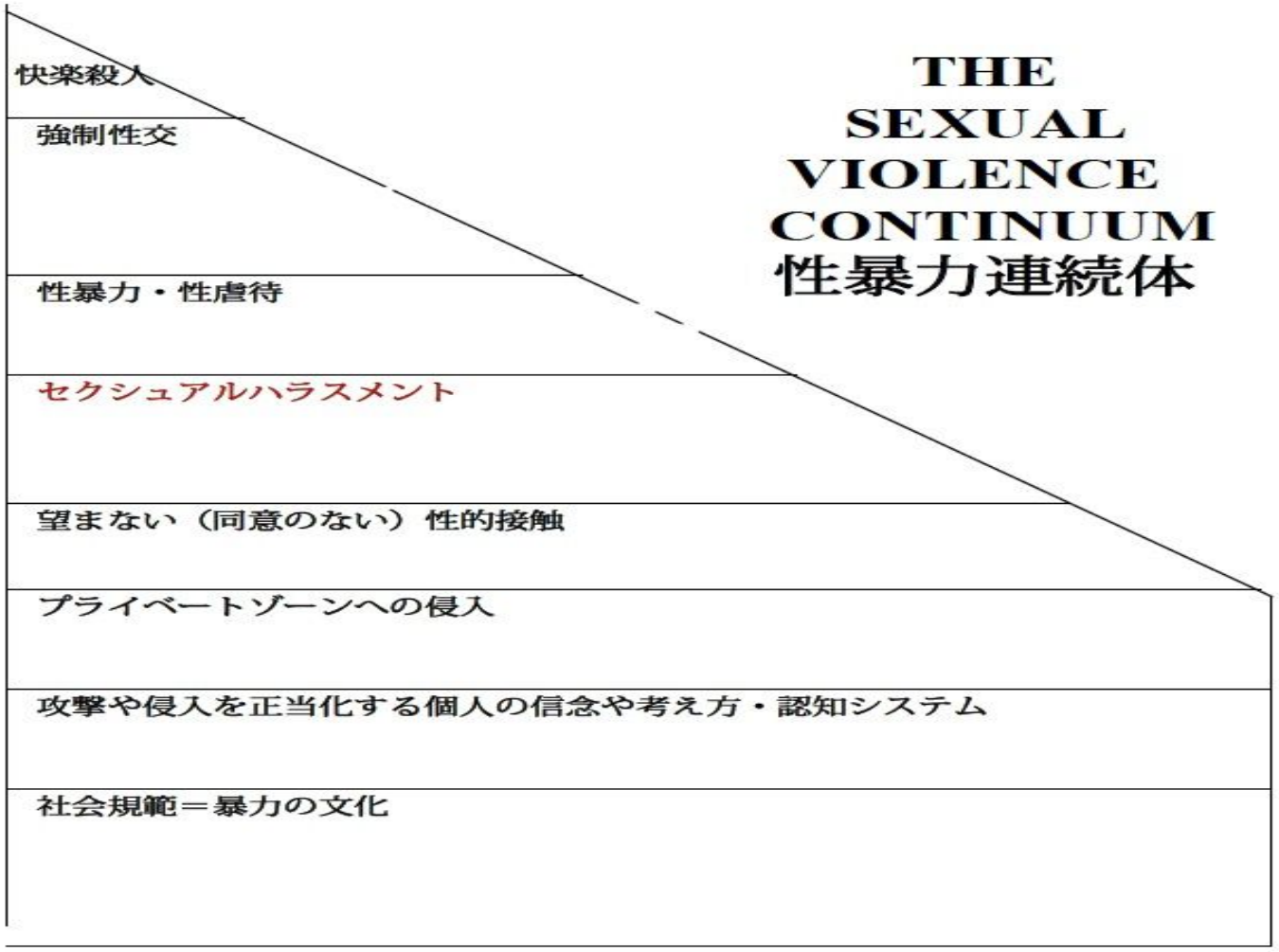
男性：「ただのジョークだよ！何をそんなに気にしているの？」

女性：「性暴力はピラミッドのように存在する。あんたのジョーク、暴力の文化に加担している。」

https://knowyourmeme.com/photos/2253768-asian-fetish-yellow-fever（2022 年 2 月 28 日アクセス）

性・ジェンダー暴力連続体

暴力連続体



National Center on DV
& Sexual Violence
から中村作成
WWW.ncdsv.org

⇒性化される暴力＋ジェンダー暴力
⇒性暴力・ジェンダー暴力連続体

暴力の定義の変更—親密さ、訴求性のなかで

非対称な関係性＋配慮する役割

コントロール行動・強いる行動

coercive control

関係コントロール型の暴力

現実を定義する力

関係コントロール型暴力の内容

暴力の中心にあること

Controlling or Coercive Behaviour in an Intimate or Family Relationship :Statutory Guidance Framework, December 2015, Home Office（英）

例示されている行動：経済的な虐待、脅し、子どもを使った脅し、秘密をあばく、家財を壊して脅す、外出させない、働くことを禁止する、孤立させる、基本的欲求の剥奪、時間統制、デジタルコミュニケーションの禁止や統制、日常生活の統制（外出、余暇、睡眠などのあらゆること）、医療を受けさせない、役立たない奴だと言い続ける、辱めや非人間的な規則や行動を強いる、価値剥奪、自己非難や責任をおしつける・・・

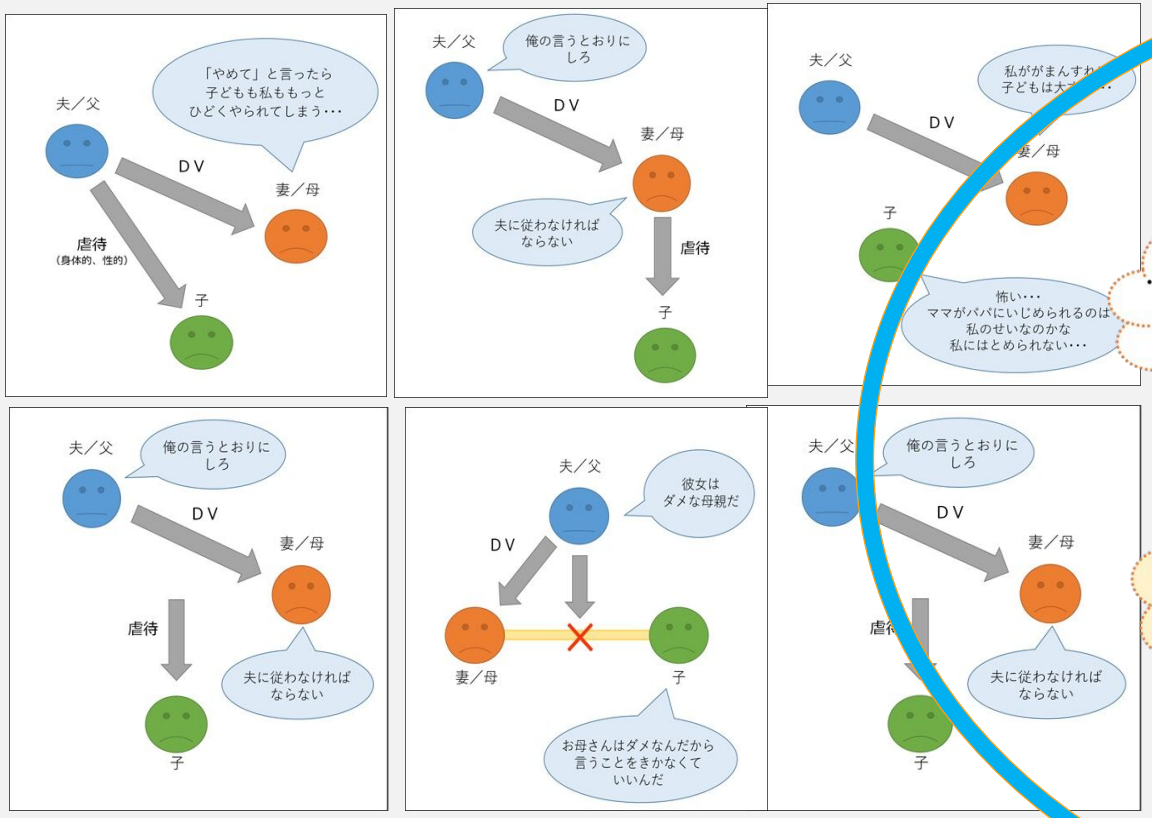
関係コントロール型の暴力

⇒パートナーシップの基本における暴力なので、DV問題は対人暴力の根底に横たわる問題

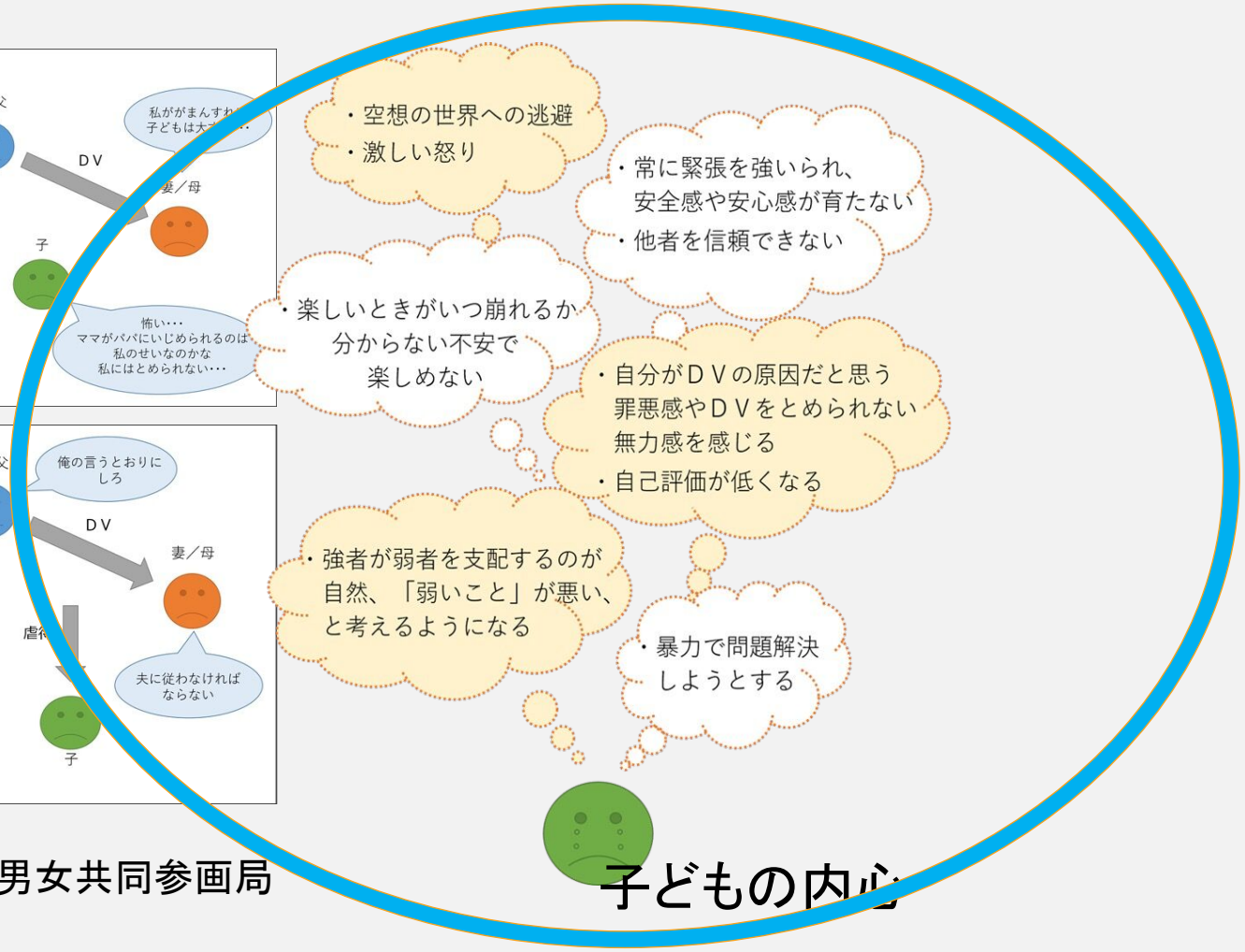
Evans Stark, *Coercive Control: The Entrapment of Women in Personal Life*, Oxford University Press, 2007.

DVと虐待の交差・家族を介した「関係性の再生産」ー子どもへの影響

「面前DV」(＝複合暴力)をとおして、男女関係とジェンダー、パートナーシップを学ぶ子ども



内閣府男女共同参画局



３．マジョリティの日常―無知と無視と排除

マジョリティの無知とマイクロアグレッションの指摘

優位に生きていけることに気づかない＝マジョリティ問題を問うマイクロアグレッション（いくつかの例）

かなりの努力を強いられる被害者（マイノリティ）

例①：あるラインのメールから

2021年10月7日

中村正 10月7日 1:53

俺の取っている３限目の講義、休講になったので会いたい。

『対人援助学マガジン』第 46 号
中村正「臨床社会学の方法（34）関係の非対称性と権力の勾配 －「俺のとっている講義が休講になったのでこれから会いたい」とラインで言われた女子学生と考えたこと－

👉　春セメで紹介した事例を深掘りして考えすぎるくらいに考えてみたものです。ダウンロードして読んでおいてください。上記のスクショは架空のものです。

例②：肌色は何色？

レイシズムの課題

ナチュラルカラー、スキンカラー、ベージュなのに色を特定することの無意識

続

まず、俺は誰も責める気は無い。文句を言う気もない。世界的にこういう状況で、俺自身の体験を知りたいというメッセージの多さ、
おんなじ境遇の人、またその両親の少しでも励みになればと思い、炎上覚悟で投稿します。
ただ自分の物凄く嫌だった過去をさらけだします。

まず最初に言いたいことが、これが差別だとかどうとかそんなのは本当にどうでもいい話。この話は俺自身の体験であって、これをみてる大半の人には当てはまらないからこういう人もいるんだな〜くらいで大丈夫です。

俺が5歳くらいの頃かな。

まず、保育園で思い知らされた。

醜いアヒルの子の絵本を先生が読んでた。
周りのみんなは先生が読んでる間、俺をジロジロ見ながら笑ってくる。俺はもちろんのようにうつむき耳を塞いでた。物凄く孤独だった。先生は悪気ないし、しょーがないっちゃ。俺が周りとは違うこと認識させられた出来事だった。

これも、保育園の時の話。
ある日、親の似顔絵を描く時があった。
先生は言った。親の顔は肌色で塗りましょう。
その時保育園にあった、肌色のクレヨンの色はだいだい色だった。

でも、俺はその時の反抗心からか涙ながら、茶色のクレヨンをとり親の顔を書いた。出来上がった後はもちろん皆んなに笑われた。

なんだろう、この時は毎日が辛すぎた。
家のベランダから外を眺めながら、
ここから飛び降りて生まれ変わって、普通の日本人になれるかなとか、考えてた。
今となっては、この普通とは何なんだろうと未だに考えてる。

小学生になると、近所のおじさんに勧められてなんとなく野球を始めた。

でも、やっぱり入ってすぐ心配してたことが起こった。初めてできた先輩たちは、俺の肌の色をあざ笑いながら、お前の家では虫とか食うんだろとか、ここには出せないほどの汚い言葉の数々で罵られ、
殴られる。

もうこの辺で俺の中の心は無いようなものだった。

学校では、他の学校のヤンキー達が、ただ俺の肌の色だけを見て喧嘩をうってくる日々。

少年野球では、試合前の整列で相手チームから外人いるぞ、黒人だ、だの俺の心をさらに壊されていった。

高校野球あたりからは周りのOB会など外人なんて高校野球で使うんじゃ無いだの、甲子園には黒人はでるな。などの心ない言葉が沢山俺の耳に入ってくる。

正直、もう俺の人生にはつきものだから慣れたよ。

今となってはいい年して、SNSのDMでわざわざ言いにくる奴もいる。

日本では珍しくて、アフリカではよくある病気を判明させるまで大変な思いをしたこともあった。

この他にも、いろいろ経験してきた。

本当に心が無くなる瞬間。これがもう自分が無敵になったような気がする。でも、今考えてみるとただ単に心をシャットダウンして、他人に対して何の感情も湧かなくなるだけだった。

心が無くなるのは本当に怖い。

でも、こういう経験があるからこそ、悔いないように生きようと思うし、良くも悪くも今となってはちょっとやそっとのことじゃ動じなくなった。
何より、母親とは話が合わず、唯一心の痛みを分かち合えたのは、妹の桃仁花だった。
だからこそ妹は今でも大事な存在。

今後、自分の子供ができて同じ経験をさせないようにはどうすればいいのだろう。と考えてる人。そういう人たちの共感につながればいいな。

Louis Okoye

楽天オコエ瑠偉外野手（22）の6月15日ツイッターより

例③：黒人の胎児を描いた医学イラスト

- 2022.01.29 Sat posted at 18:25 JST　https://www.cnn.co.jp/fringe/35182789.html

（CNN）昨年12月、子宮内の黒人胎児の姿を描いたイラストが拡散し、SNSでは多くの人が「黒い肌の胎児や妊婦の描写を見たのは初めて」というコメントを寄せた。

イラストを作成したのは、ナイジェリア人の1年目の医学生チディーベレ・イベさん（25）。これほどの注目度は驚きだったといい、今回の絵は「医学イラストの多様性を提唱するために私が描いた絵の一つに過ぎない」と話す。

この絵がきっかけとなり、医学イラストにおける多様性の表現の欠如について議論が巻き起こった。こうした絵は通常、病態や処置方法を示す目的で教科書や科学誌に掲載される。

イベさんは「未来のアフリカ人神経外科医協会」のクリエイティブ・ディレクターを務める。このたび、各種の症状が黒い肌の上でどのように見えるかを示したハンドブックの第2版にイラストの一部を掲載する招待を受けた。

同書は2020年に初版が刊行された。共著者を務めたロンドンの医学生、マローン・ムクウェンデさんはイベさんのイラストについて「医学の世界に平然と存在していて、私たちが気付いていないかもしれない偏見の一部を明るみに出した。私たちの頭の中で無意識の偏見が育たないようにするには、医療における多様性の表現が欠かせない」と指摘する。

例④：あいつゲイだって
一橋大学院生アウティング事件（2015年）

「おれもうおまえがゲイであることを隠しておくのムリだ。」・・・・思いを打ち明けた同級生男子に、同性愛者であることを暴露（アウティング）された男子学生が、大学構内で転落死した。その後、当該男性と大学へ裁判提起。訴状などによると、亡くなった学生（一橋大学）は、自分がゲイであることを家族にも言っていなかった。2015年4月、恋愛感情を抱いた同級生に告白。告白によって知った同級生がその年の6月、法科大学院の同級生たちのLINEグループで、その学生がゲイであることをアウティングした。アウティングに大きなショックを受けた学生は、その後授業などで暴露した同級生と顔を合わせるとパニック発作が起こるようになる。2015年7月から心療内科を受診、不安神経症やうつ、パニックなどの診断を受け薬を処方され、一連の事実や症状について大学のハラスメント相談室や保健センターに伝えていた。

続　学生自身が作成

for beginner students

The SOGIE Harassment Counseling Handbook

Supporting Survivors

"素人"のためのSOGIEハラスメント被害相談対応ハンドブック

非当事者からの相談

非当事者間の相談はカミングアウト・告白に関することが多くを占めます。例えば、AさんはCさんに、ゲイのBさん（性的指向に関して秘密にしている）から告白を受けたことに関して相談をするとします。その際、CさんはBさんのセクシュアリティを知り、Aさんは事実上アウティングをしたことになります。

このような場合、Cさんは・・・

①アウティングをしていることをAさんに伝え、厳重注意をする。

②アウティングされている範囲を確認する。

③本人と共有し、本人同意のもと、アウティングの範囲が広がらないよう、場合によっては所属組織と連携しながら、さらなるアウティングを防止する。

アウティングの違法性を理解し、もし起こってしまったところを目撃したら、適切な対応を取ることが必要です。

セカンドハラスメントの危険性

Definition

セカンドハラスメント

ハラスメント被害者が第三者にその事実を告白、相談することで、さらなる社会的または心理的ダメージを負うこと

故意的な嫌がらせはもちろんのこと、何気ない励ましや気遣いのなかで、相手を否定、非難したり、被害者の相談を軽視したりすることもセカンドハラスメントにあたります。また、セカンドハラスメントの例として、被害者から性的指向や性自認のカミングアウトを含む相談を受けた際、それらを本人の許可なく、周囲へ暴露することはアウティングにつながる危険もあります。

これらを踏まえて、ハラスメントの相談を受けた際には、**セカンドハラスメントの加害者にならないようにすることが重要**です。

3つの「ない！」

①否定しない

相手の主張を遮ったり。内容を否定したりする

②責めない

相手にも非があったと責める。行動を注意する（被害者責任論）

③言わない

相手の許可なく周りに公表する。善意で周りに知らせる（アウティング）

Q 友達からハラスメント被害の相談を受けたらどうするべき？

Harassment

ハラスメントとは、広義には「人権侵害」であり、相手に対して行われる「いやがらせ」、「いじめ」のことです。

Sexual

「セクシュアル・ハラスメント」

望まない性的言動、または固定的な性別規範の押し付けなどのこと。被害者に肉体的、精神的に苦痛や不快感を与えます。

Sexual

「SOGIE(Sexual Orientation/Gender Identity and Expression)・ハラスメント」

性的指向または性自認、性表現に関する揶揄や差別のこと。レズビアンやゲイ、バイセクシャル、トランスジェンダーなど（LGBTQ+）の性的マイノリティに対して精神的に苦痛や不快感を与えます。

Outing

「アウティング」

性的指向または性自認、性表現（その他病歴等）に関連する機微な個人情報を、本人の同意なしに第三者に対して暴露すること。プライバシー権の侵害、及び人格権の侵害に当たります。

例⑤：根強い能力主義

（文春文庫、2021年）

東京大学誕生日研究会強制わいせつ事件（2016年5月10日）東京大学の誕生日研究会というサークルのメンバー5人によって起こされた強制わいせつ事件。「わいせつ事件」の背景に隠された、学歴格差、スクールカースト、男女のコンプレックス、理系VS文系、被害者非難……。内なる日本人の差別意識・・早稲田、慶應、京大、滋賀医大などでも事件。大学教授もハラスメント加害など・・・。相手が東大生だったことで、訴えた被害女性が、「勘違い女」などと、ネットでの激しい二次被害も。

「能力に基づく異なる扱い・・区別＝合理的差別？」

４．若者が考えたマイクロアグレッション

マイクロアグレッションを「私ごと」として考える
ー『朝日新聞』（2022年8月17日）社会病理学ゼミ登場ー

SDGs@大学

「マッチョ」も学ぶ男性視点のジェンダー　立命館大学中村正ゼミ

大学入試・受験　大学選び　就職　2022.08.17

朝日新聞 EduA

中村教授が担当するゼミでは、社会病理全般をテーマとしている。「文献や資料だけに頼るのではなく、社会問題をパーソナルな体験と重ねて考えるよう指導しています」・コロナ禍で対面授業ができなかったときは、静止画に学生自身がナレーションをつけてまとめる「フォトボイス」という手法を用い、オンラインでテーマを挙げさせた。「提出されたフォトボイスから、いま学生にとって何が問題なのか、若者がいかに社会病理の中で生きているかがよくわかりました」

◇中村正教授／立命館大学産業社会学部現代社会学科社会病理学・臨床社会学

「ジェンダー」の研究は男性のあり方を視野に入れるべき時代。立命館大の中村正教授のゼミでは、男女問わず学生自らの体験を通じ、社会課題としてのジェンダーを研究している。写真は中村正教授と学生たち。ゼミでは各学生の発表に対し、教授や学生からも活発に意見が出される。自由な雰囲気が印象的だった（写真／楠本 涼）

日傘の男ースキンケア≠男性美容

→　彼のテーマは？

変わる男と変わらない男ー二十歳の男子学生と五〇歳の父

こんな報告をした男子学生がいた。皮膚が弱くて小さい頃からスキンケアには相当に留意してきた。紫外線もよくないし、髭剃りも負ける。ムダ毛処理もしてきたし夏は日傘を差すようにしている。保湿にも気を使いながら乾燥しないようにしている。皮膚の病気にならないように気をつけた生活をしている。幼い時から「女子力半端ないね」と。褒め言葉なのか揶揄なのわからない表現をされてきたという。これがとても嫌だったらしい。そもそも「女子力」というジェンダーバイアスのかかった言葉でなく僕は僕の必要があってやっているので、それは単なるスキンケアだし、そもそもそんな風にしか捉えない男子のセルフケアへの無頓着さにもあきれたという。さらにこの報告のオチがある。それはそんな息子の姿をみて男らしくないと批判する父親との確執だという。ちなみに彼はアメフト部である。

本来「ジェンダー」とは社会的・文化的な性差を指す言葉で、男性にとっても無関係なものではない。だが女性研究者比率が2割に満たない日本で、ジェンダー問題を扱う研究者は女性が多いのが現状だ。中村正教授は1980年代から「男性の暴力」をテーマに、男性視点からジェンダー研究に取り組んでいる。脱暴力への加害者臨床も展開しながら、夫婦別姓を実践するなど、個人の生き方を縛るジェンダーへの疑問を持ち続けてきた。アルバイト先の経験から食品ロスや子ども食堂について考えた学生もいれば、「友人がパパ活をしているようだ」という悩みを主題にした学生もいた。また、自分の男性性の考察をする男子学生も多く、旧来の「男らしさ」と自分らしさとの齟齬をテーマに選んだ学生も。筋骨隆々の「マッチョ」な彼はスポーツ社会専攻で4年生の徳山太一さん。選んだ題材は、「日傘をさす僕」だ。

「中学から柔道を、高校時代はアメフトもやっていました。筋肉はもっとつけたいし、憧れのボディービルダーもいます」快活にそう話す徳山さんの手の爪は短く切りそろえられ、白のネイルカラーでシンプルに彩られている。肌は自然な白さとなめらかさで、ひげの跡もない。「僕は爪が割れやすくて、肌も荒れやすいので日焼けやカミソリのダメージを避けたかった。だから脱毛をしたり、日焼け止めや日傘を使ったり保湿したりもしています。でも『ケア』という感覚で自然に始めたことが、想像以上に批判や衝突を生むことを経験しました」

５．暴力加害にみるマイクロアグレッション

男性・父親の脱暴力をめざす「男親塾」

反省や罰ではない思考、認知、意味づけ
＝暴力ではない問題解決

父親の養育力の向上の前にすべきこと＝夫婦関係、対人関係改善、問題解決行動の修正・・・

月に2回、一回二時間、年中実施、「自由」参加（非構造化）、子ども中心に、児相のケースワークとの連動、児相職員研修の組み込み、個人面談・夫婦面談、「再統合」の一角、大阪府・大阪市・堺市と立命館大学協働

DV加害グループワーク個人相談「男性問題相談室」（京都府）

京都府の支援のもと、
男性問題相談のなかの
DV加害者向けグループワーク
2022年12月6日（19時30分）
第3クールの1回目

1クールは月に2回のグループワークを8回。
3クール実施（１年間）。クールとクールの間に
個人面談。可能な男性はパートナーコンタクトも。
ファシリテーターとコ・ファシリテーター、記録係、
そして初期面接・連絡担当の合計4名。現在、
２グループ稼働。1グループは加害男性４－５名。
動機形成と問題整理のために5回の個人面談。
全部で2年かかる脱暴力支援

モラルハラスメントの暴力性

フランスの精神科医/マリー＝フランス・イルゴイエンヌ

加害者が相手を不安に陥れるためによく使う方法

- 相手の意見や趣味、考えを嘲弄し、確信を揺るがせる
- 相手に言葉をかけない
- 人前で笑い者にする
- 他人の前で悪口を言う
- 釈明する機会を奪う
- 相手の欠陥をからかう
- 不愉快なほのめかしをしておいて、それがどういうことか説明しない　⇧留学生から
- 相手の判断力や決定に疑いをさしはさむ

『モラル・ハラスメント』(マリー＝フランス・イルゴイエンヌ著・高野優訳／紀伊国屋書店)

関係コントロール型暴力の具体的事例

相談の記録ノート（被害者聞き取り）から

①「自分のものを買うときにいつも一緒に付いてくる。僕の好みの女性になってほしいと言う。自分が自分でなくなっていく感じがする」

②「交通の便の良くないところに住んでいるので本当は免許が欲しい。必要なのに，免許を取らせてくれない。運転が下手だからって言う。だからいつも彼の車で行動することになる」

③「習い事をしていると言うと，それは男性から教わるのかって聞いてくる」

④「同窓会に行くと言うと嫌な顔をする」

⑤「DVを受けているのに彼といる方が安全だと思うような意識になったことがある。実家に逃げていると追いかけてきたり，メールが頻繁に入ったりするので結局一緒にいることで落ち着くから」

⑥「今日は何をしていたのかといつも聞いてくる」

⑦「『死んでやる』。と言われると別れられない。元の関係に戻ることが多い」

一例：THE PSYCHOLOGICAL MALTREATMENT OF WOMEN INVENTORY（PMWI）アセスメント

- 彼は私の時間を監視し、私の居場所を点検する。
- 彼は私たちのお金を使い、重要な経済的決定を私に相談しない。
- 私の友人に嫉妬したり、疑ったりした。 1）高コントロール
- 私が他の男と浮気していると非難した。
- 他の家族との関係に口出しをした。 2）高コントロール
- 私が自活するのを邪魔しようとした。 3）高コントロール
- 携帯電話を使うのを制限された。

Jennifer L. Hardesty and Kimberly A. Crossman, Megan L. Haselschwerdt, Marcela Raffaelli and Brian G. Ogolsky, Michael P. Johnson,. Toward a Standard Approach to Operationalizing Coercive Control and Classifying Violence Types., in *Journal of Marriage and Family* 77 (August 2015): 833–843

暴力の「地と図」をみすえて―認識的不正義の指摘

- 脱暴力への過程はそう簡単ではない。これまで暴力的であった生き方の特性が脱暴力過程にも反映される。たとえば，**解決を急ぐこと、問題解決について自分で決めてしまうこと、もう自分は大丈夫と思い込み相談に来なくなること、「離婚してやる」と言うこと、相手も悪いと述べる**などが散見される。

- したがって、暴力の出来事それ自体というよりも、暴力を含んで成立している彼の**日常生活という生態学的な環境や行動のシステム、つまり関係性の組成の仕方自体を対象**にして脱暴力を検討していく。出来事としての身体的暴力は氷山の一角なのでその下に沈んでいる膨大な量の関係性の社会病理を溶かしていく。対話では，暴力を肯定する文脈を探ることになる。「図」としての暴力事件だけではなく、「地」としての、暴力や抑圧を無自覚に包含する彼の無知と悪意と無意識のミクロ環境へと降り立っていく。

＊マイクロアカウンタビリティ＝責任の召喚（ゼミナール方式の脱暴力グループワーク）

加害のナラティブの掘り起こし

まだ恋人同士だったころ、ドライブをしていた。夜、何かの小動物を轢いたような衝撃があり助手席にいた彼女が車を止めて確認したいと言った。彼は無視して走り続けた。車の点検をしたり、もし何かの動物が死んでいたら保健所に連絡したり、路肩に寄せておいたりといろいろなことをすべきだと思った。このときの違和感がいつまでも残ったと語る。どうしてか。将来、結婚して子どもができたら大丈夫だろうかと思ったのだという。筆者は「生命の感受性の異なり」と名づけた。男性加害者への相談では，合意がとれれば女性にも話を聞く機会（パートナーコンタクト）を設けることがある。被害者との対話の後の加害男性との相談は、質的に充実するからだ。ほかにもこうした違いはたくさん語られる。加害男性から、加害者臨床に来て気づいたとして語られることもある。たとえば子どもの発達障害の受容のことがある。父親がなかなか認めないのだ。妻は発達相談に行かせたい。夫は、子どもは多動で元気な方がよく、いつかは成長とともに収まるといって取り合ってくれない。子どもが発達障害かどうかというよりも、子どもの行動の特性を案じる妻がいて、そのことを理解してほしいと思うだけなのに、いきなり決めつけることへの不満が溝をつくっていく。妻はせめて夫婦で話をしたいと思っているだけだがそんな時間はないので無理だというばかりだ。

中村正「加害者の変容可能性をひきだすための対話」

『精神科看護』2023年3月号（50巻3号）

あるDV男性の発言

男らしさを問題にする脱暴力のグループワークに来たあとは『脱力』していくようだ。だから参加すると疲れる。躾として多少厳しくすることや妻も相当にやり返してくるので,ついついでてしまう暴力だけど,そうしたことは適度に自分の男らしさを支えているので、こうした場で脱暴力を指示されると虚脱していくようだ。」

（男親塾で）

他罰性と加害

子どもの虐待とネグレクト 第22巻第1号 2020年4月

表1 暴力神話--グループワークで語られた男性たちの暴力を肯定する意識の整理

暴力は愛のむちである。	暴力は相手が引きおこさせる。
暴力は問題解決になる。	暴力に耐えてこそ人は強くなる。
暴力は正しい。	暴力を振るわれるには理由がある。
暴力をとおして痛みがわかる。	暴力は人を鍛える。
暴力を振るうほどに関係が密である。	暴力は絆を強くする。

中村正「男たちの『暴力神話』と脱暴力臨床論–家庭内暴力の加害者心理の理解をもとにして一」（日本子ども虐待防止学会）

その男性の暴力は偶然ではない
-A WAY OF LIFE, SCHEMA, PROBLEM-SOLVING-

カッとなって、頭が真っ白になって、瞬間湯沸かし器みたいに、怒りの感情に任せて・・・とはいうけれど（加害者が行方不明ーレベッカ・ソルニット『わたしたちが沈黙させられるいくつかの問い』左右社、2021年）

①誰でもいいのではなく、選択していること/関係の非対称な対象者へとむかうこと　女性、子ども、脆弱な男性を選択

②暗黙理論（無意識のバイアス）があること

③習慣的問題解決（常習性・アディクション）でもあること（学習性）

④非犯罪的ニーズの不充足、性犯罪には「非性的ニーズ」を満たす行動/怒り、嫌悪、コントロール、統制感、満足感・充足感、嗜虐性

６．まとめとして
―脱マイクロアグレッションへ―

友人・同僚・隣人・親族として
コミュニティにおける脱マイクロアグレッション

①マイクロアグレッションという直接的な言動やコミュニケーションの次元から社会的差別を学習し、加害者にも、被害者にも、そして**傍観者・同調者**にもならないようにする教育の必要性。**友人として相談される**ことがあるので決定的にこの点は重要。（＝善き隣人の存在）。

②マイクロアグレッションに対してどうすればよいのかについてマイクロアカウンタビリティ、マイクロアファーメーションなどとして**ボトムアップ型の人権教育**を体系化しつつある。そこには**脱傍観者教育**も含む。

2020年『Microintervention Strategies: What You Can Do to Disarm and Dismantle Individual and Systemic Racism and Bias（『差別への日常的介入法～個人的・組織的レイシズムと偏見に対して私たちができること』

＊時間がないので紹介だけ。

マイクロアグレッションを把握する意義

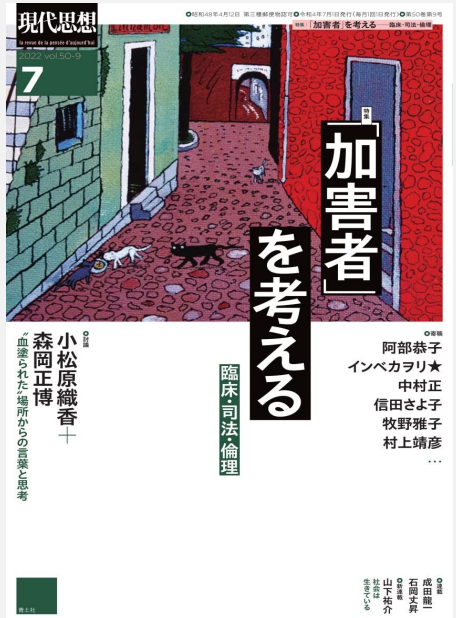
- 被害や加害を医療化（病理化）する傾向（精神医学・心理臨床）
- 関係性の社会病理やシステム問題であること（人権論・社会科学）
- パーソナルセラピーとソーシャルセラピーの二つの視点の必要性
- 認識的不正義や知識資本主義との格闘も重要
- 新しい理論：POWER THREAT MEANING FRAME の考え方（対案）

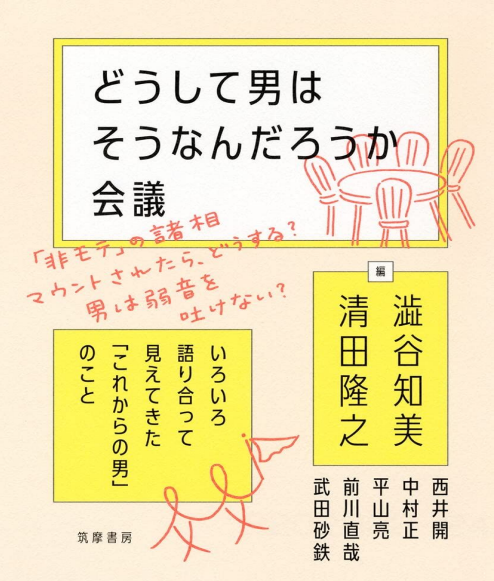
①「心のケア」だけを突出させないこと、②社会の説明責任や加害性・暴力性の認知が先行すべきこと、③善き隣人モデルに立つべきこと。

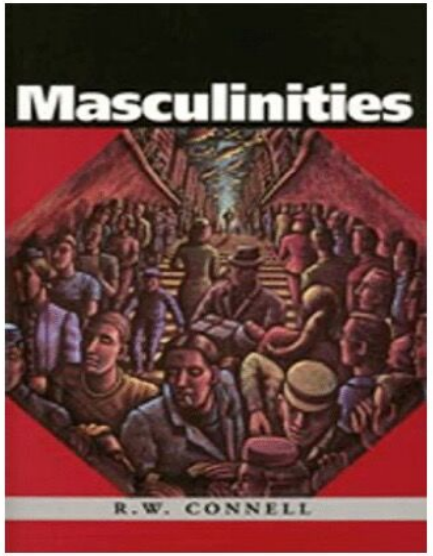
Sue(2010)＝社会的背景に対するカウンセラーの無理解、悩みの原因に対する矮小化といったことが、マイノリティの治療の早期終結やサービスの非活用につながっていることを指摘

文献・資料の紹介

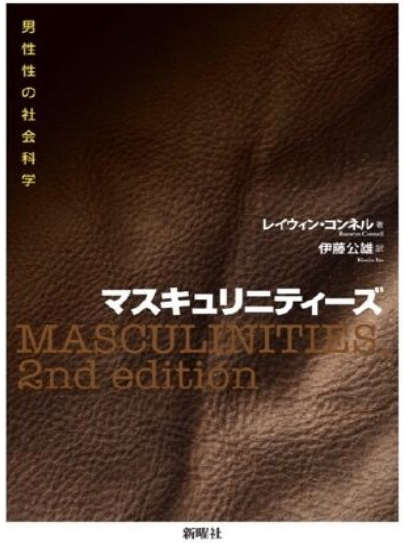
文献紹介



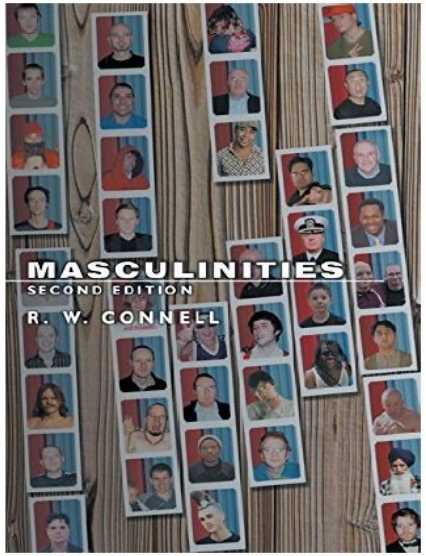




1995 年第 1 版

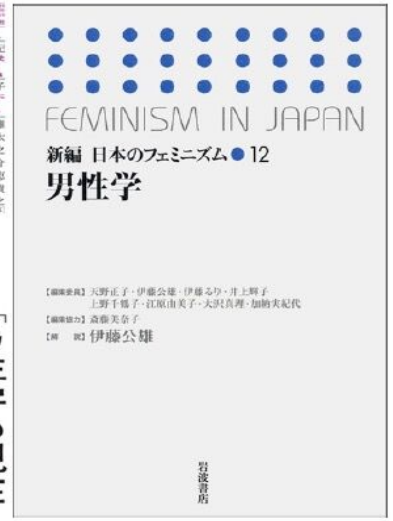


翻訳本 2022 年



2005 年第 2 版

男性学の変化：独自に男性学 2019 年『現代思想』



2011 年フェミニズムの中の男性学研究

本日の話に関連するいくつかの拙著文献

①中村正（2016a）「暴力臨床論の展開のために―暴力の実践を導く暗黙理論への着目―」『立命館文学』第646号、立命館大学人文学会（ダウンロードできます）
②中村正（2016b）「暴力臨床の実践と理論―男性・父親の暴力をなくす男親塾の取り組み」『季刊 刑事弁護』第87号、現代人文社
③中村正（2017）「不安定な男性性と暴力」『立命館産業社会論集』第52巻4号（ダウンロードできます）
④中村正(2019)「暴力の遍在と偏在―その男の暴力なのか、それとも男たちの暴力性なのか」『現代思想』Vol.47-2、2019年2月号
⑤中村正(2020)「男たちの『暴力神話』と脱暴力臨床論―家庭内暴力の加害者心理の理解をもとにして―」、『子ども虐待とネグレクト』第22巻第1号、子ども虐待防止学会
⑥中村正(2021)「児童福祉において『男性問題としての暴力』をいかに扱うか―男親と『暴力と加害・責任』の対話を拓く試み」、『子ども虐待とネグレクト』第23巻第3号、子ども虐待防止学会、
⑦中村正（2022）「加害行為研究の視界」『現代思想』2022年7月号

参考：

「社会臨床の視界」・「臨床社会学の方法」

フリーマガジンです。600ページ程、私のアカデミックエッセイが格納されています。対人援助学会の刊行物です。

対人援助学マガジン

検索